笑顔 中央小学校だより

～自ら挑戦し ともに高め合おう～　後期評価号

令和７年度後期学校評価の報告

本校では、年間2回、児童・保護者を対象に「教育活動」や「学校生活」などについて振り返る「学校評価」を実施しています。いただいた評価は、教育活動の改善や来年度の計画の資料として活用しています。今回は、後期の教育活動に対する評価の内容を報告します。

※数字（%）は肯定的な回答をした割合を、（A:）で表した数字は強い肯定の割合を表しています。

１　子供中心のわくわくする学校づくりに関する質問

「学校はたのしい」

児童96.2%（A:73.3%）　保護者96.1%（A:50.6%）

「学ぶことはたのしい」

児童97.5%（A:69.2%）　保護者92.0%（A:30.4%）

前期に引き続き、多くの子供が「学校がたのしい」「学ぶことがたのしい」と感じています。友達との交流や地域の先生との関係、様々な授業や活動における豊かな体験を通して、子供たちは学ぶ喜びを実感し、成長し続けていると感じています。今後も、全ての子供が「たのしい」と感じられるよう、「楽しく」「魅力的」な学校づくりを進めていきます。

２　人との間で承認欲求や所属や愛の欲求が満たされる温かな学校づくりに関する質問

「自分のことを大切に思っている」

児童94.9%（A:67.6%）

「友達や先生、家族、地域の人のことを大切に思っている」

児童99.2%（A:81.0%）

「学校の先生は、安心・安全を考えてくれている」

児童98.5%（A:81.6%）

「学年や学級、グループの友達と協力している」

児童97.3%（A:62.0%）

「まごころ3活動」や「まごころみつけ」に加え、学校行事等での集団的活動を通して、「自分たちはここにいてもよい」と安心する子供が増えています。これからも「まごころ」をキーワードとした取組を行うことで、自分の感情や価値観を大切にする心、自分を認める心、中央小の一員として他者と積極的に関わる心を育成していきます。

３　安心・安全・安定（ユニバーサルデザイン化、危機管理、コミュニティ・スクールの展開）で教育環境の整った学校づくりに関わる質問

「学校は子供の安全・安心を考えて教育活動をしている」
　保護者98.6%（A:43.8%）
「学校は子供が間違ったことをしたとき、きちんと指導している」
　児童98.5%（A:79.1%）　保護者97.8%（A:41.8%）
「学校のコミュニティ・スクール（CS）の活動を知っている」
　保護者75.6%（A:21.9%）
「CS があることで授業が充実している」「学校には、信頼できる先生がいる」
　教職員100.0%（A:60.6%）　　保護者95.8%（A:44.9%）
「自分の学級は安心できる」
　児童94.2%（A:55.6%）

子供と保護者から、学校の安全・安心に係る取組に一定の評価をいただいたと考えています。安心・安全は、安定した学校運営の基盤です。引き続き、子供が安心を感じる学校づくりに努めます。一方で、CS の認知が前期と比べてあまり伸びていないことも分かりました。地域や保護者抜きの学校運営は考えられません。遠藤 CS ディレクターを中心に CS の周知と活動参加の呼びかけを積極的に行い、保護者の皆様や地域の皆様とともにある学校づくりを進めます。

自由記述欄にお寄せいただいた内容

自由記述欄に子供たちの輝く姿や活躍する姿を数多くお知らせいただいたことで、子供たちにたくさんの勇気づけの言葉をかけることができました。保護者の皆様のお考えも詳しく知ることができました。ありがとうございます。お寄せいただいた御意見は、今後の教育活動の参考資料として活用させていただきます。寄せられた御意見のうち、代表的なものにお答えいたします。

「宿題で自学を出されていますが、毎日出されるとネタも尽き、追い込まれてしまっています」「プリント学習や書く活動はどの学年も必要だと感じています」

家庭学習は、「学習習慣の確立」「学力の定着と向上」「自ら学ぶ力（主体性・自己調整力）の育成」を目的に行っています。近年、「自ら学ぶ力（主体性・自己調整力）の育成」が注目されており、本校でも「やらされる宿題」から「自分で力を伸ばす学習」への意識の転換を図ろうとしています。一方で、子供の実態に合った内容と手立てが家庭学習とフィットせず、困り感を抱える子供や御家庭があることも事実です。今後も、自ら学ぶ経験を数多くすることを目指して家庭学習の改革を進めてまいりますが、「自分の課題がつかめない」「どのようなやり方があるか分からない」という悩みには個別に対応して解決を図ります。課題を感じられた場合は、学級担任まで御連絡をお願いいたします。

「書くことが少なくなり文字や言葉を覚えられなくなってきています」「学年に合った ICT の活用をお願いしたいです」「読む力、書く力の遅れが目立ちます」「パソコン教育への偏りが心配です」

社会と同様に、学校でも PC を使った活動が主流となり、書く手段が鉛筆からキーボードへ、つまり「手書き」から「タイピング」へと変化しています。ただ、手書きの機会が減ったからといって、言語能力そのものが衰えるわけではないと考えています。子供たちは学習の過程で、デジタルツールを通じて、これまで以上に膨大な量の文字を読み、打ち込んでいるからです。 一方で、「手で書く」ことでしか鍛えられない能力があることも事実です。来年度の教育活動を計画するにあたっては、こうした「書く」活動をどのように組み入れていくか、改めて検討したいと考えています。

「chat のような便利なツールを使うことはよいことだが、大人も子供ももう少し表現に気を配って『まごころ』のこもった文章でやりとりできるといいです」

子供たちにとって ICT 機器や SNS は日常的な道具ですが、相手への配慮が欠けてしまう面も確かにあります。便利な道具を使いこなしつつも、「この言葉で相手はどう感じるか」「自分の思いが正しく伝わっているか」を一歩立ち止まって考えることができる「まごころ」を育む教育を、これからも根気強く続けていきます。

「先生の経験から、子供たちを先入観で判断していることがあった。一人一人違うので小さな頑張りを見つけてほしい」「子供は先生がひいきしていると感じているようです」「子供の実態に合わせたもうすこし柔軟な対応をしていただけたらと思います」「子供の話をくみ取ってあげてほしい」

御指摘いただいた「一人ひとりに合わせた柔軟な対応」や「対話の重視」は、まさに中央小が目指す教育の核となるものです。もし、教職員が、これまでの経験に頼るあまり、知らず知らずのうちに子供たちを型に当てはめて見てしまっていたのであれば、深く反省しなくてはなりません。経験や先入観に頼るのではなく、日々変化する子供たちの実態を捉え、子供たちと「まごころ」を持って向き合い、信頼関係を築けるよう、指導のあり方を常に見直していきます。

「盗難についての経過や今後の対応について、説明していただきたいです」

昨夏に発生した水着の盗難事件に関しまして、皆様に御心配をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

学校ではこれまで、廊下で保管する持ち物の削減、学年帽子や体操着の持ち帰りの徹底、警察への相談、昇降口の常時施錠といった対策を強化し、現在も継続しております。ただ、現時点で品物の発見や犯人の特定には至っておりません。

今後、さらに抑止力を高めるため、PTA の御協力を得ながら防犯カメラの設置を検討しております。今後も、お子様が安全に安心して学校生活を送ることができるよう、再発防止に向けた取り組みを推進していきます。

「発表や授業参観の回数が少なく、気付くことや見る機会が少ないです」「学年だよりがあったらいいと思います」「子供の話す内容だけでは学校生活がなかなか見えてこないです」

お子様の様子を直接御覧いただく機会が限られている中、少しでも学校生活の空気感をお伝えできるよう、今後は学校ホームページや学校だより、ツムギノを活用した活動報告や写真の共有など、ICT

を活かした発信方法を模索してまいります。 お子様との会話に学校からの情報を添えていただくことで、御家庭でも中央小での出来事について、より会話が弾むような仕組みづくりを目指していきます。なお、学年だよりについては、年度当初（4月）のみ全学年が発行します。その後は必要に応じて発行します。

「通学班が負担になっているので、家庭の責任で登校するようになることが望ましいと考えます」

中央小では、これまで子供たちが安全に登校できるよう通学班による集団登校を推奨してきました。しかし、現在、通学班の編成や運営において様々な課題が生じているのも事実です。 つきましては、来年度、保護者や地域の皆様と連携して検討組織を発足させ、登校の在り方について協議を重ねていく予定です。「子供たちの安全・安心」を最優先の大前提として、時代や地域の実情に合った最善の形を、皆様と一緒に模索してまいりたいと考えています。

「PC を毎日持って帰ることが小さい子供たちにとって負担だと思います」

PC の毎日持ち帰りによる負担について、御心配をおかけしております。本校では「ツムギノ」等の ICT ツールを、学校と家庭をつなぐ大切な連絡手段として位置づけています。 毎日持ち帰ることで、学校からの連絡を即座に確認できたり、お子様が学校で取り組んだ成果を御家庭ですぐに共有できたりするメリットもあります。 重さへの対策（副教材の精査など）は継続して行いつつ、デジタルならではの特性を生かした「親子の会話のきっかけ」「家庭と学校の架け橋」として御活用いただけるよう、運用の工夫を重ねていきます。

「新入生説明会の物品販売の説明がわかりにくいという声を聞きました」

御不便をおかけしてしまい、大変申し訳ありませんでした。今回いただいた御意見をもとに、より分かりやすい資料の在り方や説明の仕方の変更を検討します。

「交通ルールを守っていない子供がいる。声かけや見回り、見守りを強化できたらいいと思います」「挨拶ができない子供が多い」「相手が傷つくことを平気で言う子供が多い」

学校内だけでなく、地域や家庭での様子を共有していただき、ありがとうございます。寄せられた情報をふまえ、一人一人の事情に寄り添いながら、丁寧な指導に努めてまいります。 子供たちの健やかな成長のためには、学校と家庭が足並みを揃えることが不可欠です。学校でも粘り強く指導を重ねてまいりますが、御家庭におかれましても、気になる言動を目にされた際は、善悪の区別を毅然と伝えるなど、子供たちへの御指導をお願いします。